

ワークショップ 21世紀の生物多様性研究 (通算第9回)「日本と世界の生物多様性情報学の現状と展望」

このたび、表記ワークショップを企画させていただきました。ぜひご参加ください。

日時:2014年12月13日(土) 13:00~16:40 (受付開始12:30)

場所:国立科学博物館 上野本館 日本館講堂 (2F)

ワークショップの趣旨:地球規模生物多様性情報機構(GBIF)が2012年に出版した「地球規模生物多様性情報概況(GBIO)」は、世界の生物多様性情報学の現状を評価し、将来展望を議論した文書で「地球規模生物多様性概況(GBO)」と対をなす文書です。この文書の翻訳をもとに、本書の内容をレビューするとともに、日本における生物多様性情報学の現状と将来展望について考えます。

プログラム

13:00~13:30	開会あいさつ・イントロダクション	国立科学博物館	細矢 剛
13:30~14:00	フォーカスエリア A:文化~情報を共有し、オープン化する土壌を培うには~	国立科学博物館	神保 宇嗣
14:00~14:30	フォーカスエリア B:データ~標本や文書のデジタル化の推進~	国立科学博物館	細矢 剛
14:30~15:00	フォーカスエリア C:証拠~デジタル化されたデータがもたらすもの~	東京大学	伊藤 元己
15:00~15:30	休憩		
15:30~16:00	フォーカスエリア D:理解~証拠に基づく生物多様性のトレンドの予想~	国立環境研究所	山野 博哉
16:00~16:30	パネル討論		
16:30~16:40	閉会あいさつ	東京大学	伊藤 元己

定員(対象):120名(一般・特に生物多様性情報に興味をもつ研究者・大学生以上)

申し込み:ホームページ(<http://www.kahaku.go.jp/event/all.php?id=0001415167210052> あるいは科博ホームページの「イベントカレンダー」から12/13を選ぶ)から申し込み(定員になり次第締め切り)

※ 昨年までと申し込み方法が異なりますのでご注意ください。

参加費:無料

問い合わせ先:noffice1@kahaku.go.jp

主催:国立科学博物館/東京大学大学院総合文化研究科、**共催:**国立遺伝学研究所